

## 2012 年度 第2回モトクロス委員会議事録

### 【ダイジェスト】

開催日： 2012年11月2日（金）

開催場所： 一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会・会議室

#### I. 前回議事録の確認

2012年度第1回モトクロス委員会の議事録が提出され、承認された。

#### II. 2012年度主要競技会開催状況報告

2012年度全日本MX選手権シリーズ全9戦の開催報告が提出された。

##### (1) 参加台数

全日本と併催の合計数313台(1大会あたり平均)は、前年比104%。

クラスごとではIA1が33台(1大会あたり平均)で122%、チャイルドクロスは18台(1大会あたり平均)で120%の増加。チャイルドクロスは、参加地域規制を撤廃した施策で参加台数が増加したと考えられる。

##### (2) 観客数

前年比77%と減少し、第4戦SUGOや第7戦東北大会が著しく減少した。

##### (3) 併催クラス

第4戦SUGOを除き、すべての大会でJ85クラスが併催され、平均あたり29台平均参加台数が参加。

##### (4) 審査委員長報告

##### 第7戦 近畿大会 (9月8~9日 / 名阪スポーツランド)

心配された降雨もなく、残暑厳しくも快晴の下で無事に開催され、多くの観客が集まった。

IA1クラスでシードライダーが予選落ちとなり、31台の2列目スタートとなったが、進行に問題は発生しなかった。

IA2クラスヒートIで、黄旗での徐行違反に対する抗議が提出され、厳重注意と始末書提出処分とし、次回申し送り(イエローカード)とした。

##### 第8戦 中国大会 (10月6~7日 / グリーンパーク弘楽園)

晴天の恵まれ、5月の開催で選手会から苦情のあったホコリ(散水)対策については、主催者の努力によって、素晴らしいコース状態で開催されていた。選手からの評価も高かった。

IA2ヒートIのスタート1周目に選手の体がコース外(観客席)にはじき出され、観客の背中に接触する事故が発生し、赤旗が提示された。

##### 第9戦 第50回MFJGPMX大会 (10月20~21日 / スポーツランドSUGO)

予選・決勝の両日とも晴天に恵まれ、SUGOならびに東北競技役員の方々のご尽力のおかげで、ベストな状態で最終戦を開催することができた。コース上では予選日に転倒が多く発生した箇所があったが、決勝に向けてコース整備に対処して頂き、決勝は、転倒事故の数が減少された。コース整備にご尽力頂いたスタッフの皆様にも感謝する。IA2ヒートIで、黄旗振動(追い越し禁止)無視により1周減算処分となり順位が改訂となった。

IB2クラスで競技運営側の連絡ミスにより、リザーブが出走できなかった事態が発生した。

#### III. モトクロスオブネーションズ出場報告

2012年9月29日~30日にLOMMEL(ベルギー)にて開催されたモトクロスオブネーションズに出場した日本代表チームは総合26位であったことが報告された。

なお、代表メンバーは選手会にて選出されたが、後に出場予定選手の負傷等により、最終的に以下の体制となった経緯が報告された。

- (1) 2012年度参加選手 小島庸平選手(MXOPEN)、小方誠選手(MX1)、竹中純矢選手(MX2)

## (2) 今後の展開について (選手会提案)

選手会より、本年度と同様に出場選手のノミネートや監督の選出、アドバイザーやトレーナー・マネージャーの同行等、代表選手が国の代表として参戦できる環境を選手会で主導していきたいとの提案があった。2013年度の同大会出場において、費用不足の問題を解決する為に、選手会にて応援グッズを販売し、その売上げをネイションズの資金としていくことが提案された。

### 決定事項

- ・ 本年度同様、代表選手は、選手会主導でノミネートされ、MX 委員会で承認する方式が承認された。
- ・ 選手会がネイションズ応援グッズを販売し、売上資金を参戦費用に充当することが承認され、全日本全戦におけるグッズ販売協力(スペースの提供や観客への呼びかけ)を行うこととする。

## IV. 2012 年度全日本モトクロス選手権シリーズランキングの承認

IA1、IA2、IBOPEN、IB2、レディースクラス全てのシリーズランキングが承認された。

IB → IA 昇格者の報告がなされた。昇格者は以下のとおり

能塚智寛 (IBOP:1 位、IB2:2 位)	佐々木雅哉 (IB2:1 位)
渡辺祐介 (IBOP:2 位、IB2:3 位)	島崎優 (IBOP:5 位)
北原岳哲 (IBOP:3 位、IB2:6 位)	渡辺涼太 (IBOP:6 位、IB2:5 位)
神島央佐 (IBOP:4 位、IB2:4 位)	

## V. 2013 年度モトクロス主要競技会日程調整

ロードレース競技会の日程も考慮し主要競技会のカレンダー調整が行われ、以下の通り決定し承認された。

第1戦	九州大会	4月6日～7日	HSR九州
第2戦	関東大会	4月20日～21日	オフロードビレッジ
第3戦	中国大会	5月11日～12日	※会場未定
第4戦	SUGO大会	5月25日～26日	スポーツランドSUGO
第5戦	北海道大会	6月15日～16日	HOP北海道オフロードパーク
第6戦	東北大会	7月13日～14日	藤沢スポーツランド
第7戦	近畿大会	9月7日～8日	名阪スポーツランド
第8戦	関東大会	10月5日～6日	オフロードビレッジ
第9戦	第51回MFJGPMX大会	10月19日～20日	スポーツランドSUGO
モトクロス全国大会	8月4日	ウッズモーターズスポーツランド下市(奈良県)	
モトクロスネイションズ	9月28～29日	(ドイツ)	

※第3戦中国は、現在会場調整中であり、決定次第 MFJ オンラインマガジンにて公示することが報告された。

## VI. 普及対策について

前回委員会にて継続審議となっていた事案ならびに普及活動の検討を目的とした「モトクロス普及作業部会」が本年度2回開催され、対策資料についてモトクロス委員会へ提案された。

### 課題

- (1) 地方選手権の活性化について
- (2) ポテンシャル領域の拡充(入門の環境整備)
- (3) 全日本選手権での問題点
  - ①25歳以上のIA選手の受け皿対策

- ②運営業務の効率化
- ③興行型競技会のあり方

## (1) 地方選手権の活性化について

事務局にて調査された各地区のモトクロス競技会参加状況に関するデータを基に説明された。参加台数やライセンス会員数の減少に歯止めをかけるべく対策が必要であることが提案された。

### “国際 B 級クラスの地方選手権参加台数増加対策が必要”

#### 施策提案

- ・ 地方選手権シリーズで開催されている IBOPEN と IB2 を止め、それに代わる IA と IB の混走で新たに「エキスパート OPEN (仮称)」を新設する(昇格対象外)。
- ・ 地方選手権 IB クラスチャンピオンの IA 申請昇格を無くし、全日本 IB からの自動昇格のみとする
- ・ IA と IB の選手で全日本を追う気力の無い選手の掘り起しとしてエンジョイ型趣向に変える。

#### 決定事項

地方選手権シリーズ国際 B 級クラスの総合 (IB2 と IBOPEN) チャンピオン 1 名で当該年度の全日本選手権シリーズ IB2 または IBOPEN クラスでポイントを獲得した者は、申請にて国際 A 級に申請昇格する権利が与えられる。

また、地方選手権シリーズのチャンピオンの定義についてシリーズ開催予定数の 50%以上の大会またはクラスが成立しなかった場合は、シリーズチャンピオンとして認められないとの定義とすることが決定した。

### “国内 B 級クラスの技量分けクラス設定が必要”

#### 施策案

- ・ ジュニアから NB へ昇格する選手に対し「NB エキスパート (仮称)」、NB から初めてレースに参加する選手には「ナショナルチャレンジ OPEN (仮称): 昇格対象外」を新設し、ビギナーの育成とエンジョイ型で楽しむライダーの受け皿クラスとする。
- ・ 「ナショナルチャレンジ OPEN (仮称)」には、NA のエンジョイ型志向の選手も出場可とし、地元だけで楽しめるクラスとして開催する。

#### 継続審議

NA と NB は実力差が無くなりつつあり、ナショナルクラスとしてひとつに統合すべきとの意見もあるが、各地区にて統合しても問題が生じないか? 検証した上で再度審議すべき。

(統合した場合に予選レースが必要となる地区もある)

NB クラスの 2 クラス化は、上記の統合の経過とともに継続検討とする。(現時点では変更しない)

### “モトクロスジュニアクラスの減少防止対策”

#### 施策案

- ・ 地方選手権で、年少者やビギナー向けのスクールを開催する。
- ・ 地方選手権ジュニア 85 クラスを全国統一にて 2 ヒート制とし、走行機会を増加させる。

#### 継続審議

現状通り、各地区ごとに判断する。

地方選手権でのスクール開催については、加盟団体への提案と選手会との調整を今後継続して進める。

## (2) ポテンシャル領域の拡充 (入門の環境整備)

### ① KIDS バイクスクール等(報告)

JKAとのコラボレーションで開催されているTEスポーツのオートレース場でのスクール等のイベントへの可能なサポートを行う。

### ② 全日本・地方選手権でのキッズスクールの併催が提案されたが、スペースやマンパワーの不足、時間的にも余裕が無く、現時点での開催は不可能と判断した。

### ③ ごきげんモトクロス視察(奈良県・ウズズ下市) 10月28日

同イベントは、様々なクラス設定で初級～上級までの参加者が楽しめる趣向で、約140名の参加者を集め、あいにくの雨にも関わらず盛大に開催されていた。タイムアタック予選により分けられるクラス分けや“はじめて～”のつく超ビギナー向けのクラス設定が参加者に受け入れられているようだった。

MX普及作業部会として、今後普及活動に向け、このようなイベント主催者とのパイプを広げ、MFJとして協力できる部分の策定や参加募集の相互PRに尽力すべき。

## (3) 全日本選手権での問題点

### “25歳以上のIA選手の受け皿対策”

#### 施策案

- ・ IA2クラスに出場したい25歳以上の参加者からの要望が高く、特例条件を追加する。
- ・ 前回委員会でIAOPENの意見もあったが、作業部会としては採用すべきではないと判断した。

#### 決定事項

2013年もIA2クラスの25歳以下年齢制限規則は、継続して適用とする。

※但し、以下の該当選手は25歳以上の年齢であっても、2013年IA2クラスに出場できることとする。

①2013年より、昇格し、初めてIAに出場する選手

【全日本選手権(自動昇格)、地方選手権チャンピオン(申請昇格)、特別昇格で認められた者等】

②これまでに全日本国際A級(IA)にてシリーズチャンピオンを獲得したことの無い選手

③2012年度全日本選手権シリーズIA1またはIA2クラスの16位以下の選手

上記規則を2013年に適用し、不具合が生じたかどうか？について来年度第1回委員会で検証し、規則撤廃の意見も考慮しつつ2014年以降の同規則の方向性を決定し、早めに告知する。

### “運營業務の効率化”

#### 現状の問題点

- ・ 大会の収支が赤字である
- ・ 主催者事務局のマンパワー不足、モチベーションの低下
- ・ 外部からの問い合わせやエントリー先が一本化されていない故のエントリーの煩雑さ

#### 施策案

- ・ ビイレックスへの業務委託で作業効率を図る
- ・ シリーズ全戦業務のうち3項目(「パス製作と管理」、「ゼッケン管理」、「自動計測業務」)を2013年から全戦でビイレックスに外部委託する。
- ・ 上記以外の業務(選手受付やプログラム製作等)で、すでに委託により開催されている九州・中国・近畿大会以外の主催者も必要に応じて委託業務を請ける方式とする。

#### 継続審議

MX委員会については承認とするが、主催者(加盟団体等)の承認を得ることを条件とする。

## “自動計測器 (トランスポンダー) について”

**決定事項**

- ・ 比較内容の観点から、2013年度はマックスブレインとの契約を継続することとする。
- ・ 自動計測の窓口をビレックスとするよう調整。
- ・ 大会毎にレンタルする方式に切り替える。(レンタル料発生)
- ・ トランスポンダーの運用費を含めた主催者への請求額を全日本対象クラス:3,000円、併催クラス:1,000円に金額を改訂する。また、運営費確保の為、以下の通り、賞金とエントリー料金の改訂を行う。

**決定事項**

運営費を確保する為、以下の改訂を行うことが承認された。

**① 全日本 MX 選手権シリーズの賞金額を以下の通り、改訂する**

クラス/順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位
IA1	¥100,000	¥80,000	¥60,000	¥50,000	¥40,000	¥30,000
IA2	¥60,000	¥40,000	¥30,000	¥20,000	¥15,000	¥10,000
IB2/OPEN/レディース	¥30,000	¥20,000	¥10,000	¥5,000	¥5,000	¥5,000

※7位～15位までの賞金は、全額削除された。

※IA1とIA2は1ヒートごとに支払われる。

**② 全日本 MX 選手権シリーズのエントリー料金を以下の通り、改訂する**

シングルエントリー:12,500円 → 13,000円

ダブルエントリー :20,500円 → 21,000円

レディースクラス : 7,500円 → 8,000円

**(4) 興行型競技会のあり方 (普及作業部会の意見まとめ)****新たな課題**

- ・ IA ベテランライダーの受け皿の確保(引退期間の延長、カムバック)
- ・ IB、レディースクラスの予選落ち選手の走行機会の確保(次につなげる B 決勝や走行時間の確保)
- ・ レディースクラスの技量格差是正と排気量区分の見直し(世界選手権との整合性)
- ・ 観客の興味向上を目的とした“周回数方式”の採用

※新たな課題への取組みの検討として、MX 普及作業部会の継続的な開催が承認された。

## VII. 国内競技規則の改訂案について

### 1. 第1回MX委員会決定事項の確認

#### (1) 国際B級から国際A級への昇格人数 (国内競技規則書の訂正)

付則1 MFJライセンス昇格・降格に関する規則

6-5 国際B級 → 国際A級

6-5-1 自動昇格 全日本選手権ランキングで各クラス(IBOPEN・IB2)1位～10位にランクされた者。  
ただし、同点者のある場合はこの人数を超えることができる。

付則16 全日本モトクロス選手権大会特別規則【202 ページ】

12-1-4 ルーキーゼッケン

全日本選手権の国際B級(IBOPEN・IB2)から国際A級に昇格する上位の選手(最大20名)にはルーキーゼッケンが与えられる。ルーキーゼッケンは01～020まで与えられる場合がある。

#### (2) モトクロス県大会のポイントスケールについて (以下のポイントスケールが適用される)

付則1 MFJライセンス昇格・降格に関する規則

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
得点	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

※予選出走台数4台以下は不成立 ※完走者にのみポイントが与えられる

#### (3) スタートエリアとピットエリアの作業について(国内競技規則書の訂正)

付則16 2012年全日本モトクロス選手権大会特別規則

18-2-3-2 スタートエリア内(スタートグリッドを含む)は、ライダー、オフィシャル、当該クラス出場ライダーに登録されているピットクルー(1ライダーにつき1名のみに限られる)、プレス、レーシングサービス(ピットクルーライセンス所持者)、レース関係者※(キャンペーンガールまたは当該大会の競技監督に認められた者)以外の者は入ることは認められない。  
※レース関係者は、傘をさす以外の行為は一切禁止とする。

19-2 ピットエリアおよびプレパレーションエリア・ウェイトンエリア内で当該ライダーの車両整備などに従事できるピットクルーは、当該ライダーに登録されているピットクルー2名以内に限られる。

### 決定事項

赤旗中断からレース再スタートまでの時間は、競技中との解釈で統一化する。

転倒・負傷した選手の再スタート時の体調管理について、医師の判断でレース除外とすべきとの意見もあったが、時間的にも診断をする余裕が無い為、選手の自己責任に任せることが確認された。

#### (4) 技術関連規則について (国内競技規則書の訂正)

①チャイルドクロスにおいて、現状規則通り、スポークの交換・変更は禁止とする。

付則18 国内モトクロスの仕様 付則18-2 50ccクラスの仕様について

**注意事項** に追記 ⇒ スポークの変更、改造は認められない。

②2013年 音量測定について

付則17 モトクロス基本仕様 **5**音量規制 (※付則18 国内モトクロスの仕様 **4**音量も同様の改訂)

5-1 すべての車両の音量測定は、「2mMAX方式」で測定する。

5-1-1 但し、2010年以前の年式の車両は、2mMAX方式で音量値を超えた場合に限り、固定回転数方式で再測定を受けることができ、固定回転数方式による音量規制値を超えなければ合格と判断する。

5-3-6 音量値

5-3-6-1 2013年の音量値

全日本選手権 IA1、IA2 は最大で 112dB/A 以下とする。

全日本選手権 IB2、IBOPEN、レディースクラス及び地方選手権・県大会は移行措置として、最大で 115dB/A 以下とする。

- 予告** 2014年:全日本選手権全クラス(IA、IB、レディース)は最大で112dB/A以下とする。  
地方選手権・県大会は、移行措置として、最大で115dB/A以下とする。  
2015年:全ての公認競技会で開催されるクラスの車両は、最大で112dB/A以下とする。

③150Fcc/85ccクラス車両用のゼッケン寸法の追加

付則17モトクロス基本仕様 **3-14** ナンバープレート

150cc(4st)/85cc(2st)クラスのゼッケン寸法

- ◇フロントゼッケン:最低高120mm以上、数字の最低太さ25mm以上、最低幅70mm以上、数字間スペース10mm以上
- ◇サイドゼッケン:最低高100mm以上、数字の最低太さ25mm以上、最低幅70mm以上、数字間スペース10mm以上

④スペアサイレンサーの本数制限の統一解釈について

**【全日本全クラス(国際A級、国際B級、レディースクラス)統一適用】**

付則16全日本モトクロス選手権大会特別規則 **14** 車両検査

- 14-8 音量測定に持ち込むことができるスペアサイレンサーはマシンに装着されているサイレンサー以外に最大2本(2セット)までとする。

⑤「国内モトクロスの仕様」の改訂について

技術委員会との共同作業で、「付則18国内モトクロスの仕様」の抜本的な見直しを図られた。

**決定事項**

※2014年より、国内クラス(NA/NB/ジュニア)におけるカーボン素材のサイレンサーの使用は禁止。(チタン同様)

(5)ヘルメット着用義務について

ウィニングランや選手紹介等、コース内を走行する全ての者は、ヘルメット着用を義務とする。  
(スターティンググリッドにおいて、エンジン停止状態で行われる選手紹介は、ヘルメットを脱いだ状態で問題ない)  
なお、ウィニングランへの参加は、ライダーの体調管理なども考慮して、任意とする。

(6)ピットクルーの重複登録規則について

ピットクルーの登録について、同一クラスに出場している選手が複数出場している場合、同一のピットクルー1名が複数のライダーに対して作業が可能となるよう、規則を改訂してほしいとの提案が出され、審議された。  
(例:兄弟・親子)

**決定事項**

199 ページ 6-3-2 複数のライダーにピットクルーを重複登録することは認められるが、パスの支給はピットクルー1名に対し、1枚のみとする。

(7) 希望ゼッケン買取制度の変更について

**決定事項**

202 ページ 12-4(追記)

MFJ国内競技規則書の「全日本選手権歴代チャンピオンリスト」に記載されているIAクラスのチャンピオン獲得者は、全日本MXIAクラスにおけるゼッケンを無料で申請する権利が与えられる。

(申請期限:2012年12月31日消印有効)

- \*希望ゼッケン申請用紙に記載されている規定に則り1~20までの番号とルーキーゼッケンは指定できないこととする。
- \*希望した番号に既に登録された選手がいた場合、既に登録された選手は、誰とも重複しない希望番号に移動することができることとする。

## 2. 審議事項について

### (1) 集合時間について

#### 決定事項①

集合時間は、「レース開始予定時刻の10分前」とするが、「ゲート閉鎖」は205ページ18-2-2-2に記載された手順通りと解釈する。

※つまり、10分前の集合に間に合わない場合も、レース開始予定時刻に第1ライダーからスターティングエリアへ移動を始め、最終のライダー(リザーブを含まない)が移動した後にゲートが閉鎖されるまでは出走可能と判断する。

#### 決定事項②

ウェイティングエリアへの集合は、「人・車」両方とも集合している状況であること。

付則16 全日本モトクロス選手権大会特別規則 **18** スタート

18-2-2-1 「レース開始予定時刻の10分前までに、リザーブ選手を含む決勝進出者(ライダー・車両)は、ウェイティングエリアに集合しなければならない。」

#### 決定事項③

決勝レースの、前クラスのスタート後～当該クラスのスタート時間10分前(集合時間)までのうち進行役員に許可された時間帯に限り、当該クラス出場選手のみ、スターティンググリッドに入り、道具を使わずにグリッドを整備することが認められる。

### (2) 安全対策について

#### ① 競技中のコース横断について

#### 決定事項

競技中の横断は原則禁止とするものの、モトクロスプレス会の提案に基づき、横断するプレスの自己責任において競技中のコース横断は、最小限とし、かつ横断する際に手を挙げる等、周囲にわかるよう合図してから横断することで許可する。

#### ② 第8戦観客事故の再発防止策について

第8戦中国大会にて、最終コーナーでライダー同士の接触により、アウト側のライダー自身がコース外に投げ出され、コース脇の観客とぶつかり、観客が脳震盪を起こす事故が発生した件に関する防止策が審議された。

#### 決定事項

中国大会主催者にて臨時理事会を開催し、再発防止に関する協議が行われたことが報告された。

- ① 観客事故発生時の対応マニュアルの作成
- ② 各大会におけるエスケープゾーンの見直し
- ③ 各コースで再検証し、コースからほど近い観戦ゾーンを極力立入禁止扱いとするよう指導していく。  
(観戦よりも安全を優先に考える)

### (3) 医療体制について(MFJ 中国提案)

前回、MFJ 中国モトクロス委員会より提案された「医療体制拡充」の内容について、第7戦近畿大会にて救護チームとしてご協力頂いているJOMSに相談し、全日本モトクロス選手権シリーズに対する協力提案を頂いたことが報告された。

案① JOMOS の指導に基づき、近畿大会での治療例をベースに、必要と思われる医薬品をBOXに入れた状態で全日本MX選手権各主催者へ持ちまわる。

案② 2013年2月頃、各大会の救護長を集め、「救護長セミナー」を開催したらどうか？



**継続審議**

モトクロス委員会としては賛成であるが、費用のこともある為主催者の集う「加盟団体会議」に決済を委ねる。  
(加盟団体会議にて、大筋合意が得られた為、事務局主導で調整を進める)

## (4) ブルーフラッグについて

ブルーフラッグの提示は、各大会前に競技監督以下コース役員同士でレクチャーを徹底するよう要望された。

## (5) マウスガード装着の推奨について

各専門委員会委員長が説明を受け、特にマウスガード使用における脳震盪防止の提案があり、MFJ として推奨することが承認された。

## (6) HSR 九州のスターティングマシンについて

前回委員会で申請されたスターティングマシン買替えの件について、平成25年1月に完成予定で進行していることが報告され、「全日本 MX 主催者積立金」から補助することが承認された。

(加盟団体会議においても承認された)

以上